

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

向井 哲也

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、ばいかご漁業の漁業実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行う。これにより、本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。なお、調査結果の詳細については、後述する「平成28年度の漁況」に記載した。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

当センター漁獲管理情報処理システムによる漁獲統計と各漁業者に記入依頼を行っている操業野帳を解析し、本種の漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行った。

(2) 資源生態調査

JFしまね大田支所および仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、銘柄別漁獲箱数から本種の殻高組成を推定した。また、村山・由木が求めた Age-length Key¹⁾を用いて漁獲物の年齢組成を求め、さらに日別漁獲データをもとに DeLury 法による資源解析を行った。

3. 研究結果

(1) 漁業実態調査

平成28年のエッチュウバイの漁獲量は65.2トン、水揚げ金額は3,629万円であった。また1隻当り漁獲量は21.7トン、水揚げ金額は1,210万円であり、平年(過去10年)に比べ、漁獲量は36%、水揚げ金額は78%上回った。1隻あたり漁獲量増加の要因には、1隻あたり上限漁獲量(自主規制)が平成27年度に20トンから23トンに増枠となったことも要因としてあると思われる。

利用している漁場は、浜田沖から日御碕沖

にかけての水深200~230m付近であり、前年利用のなかった東経132°10'線より西側の漁場を利用しており、操業範囲は前年より拡大した。

エッチュウバイの1kg当たり平均価格は557円であり、平年を33%上回った。各銘柄の1kg当たり平均価格の最近年の推移を見たところ、中・小銘柄は昨年度より価格が上昇したが、特大銘柄は下降気味であった。

(2) 資源生態調査

資源状態の指標となる1航海当たりの漁獲量は732kgで、平年を34%上回った。また、1航海当たりの漁獲個数は13.7千個で平年を21%上回った。1航海当たり漁獲個数の推移を見ると、平成28年度は前年より増加した。

漁獲物の殻高組成をもとに年齢分けを行い、漁獲物の年齢組成を見ると、平年に比べ1~2歳貝の漁獲が多かった。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばいかご漁業部会で報告された。調査結果は同部会の資源管理指針として利用されており、これをもとに漁業者が自主的に漁獲量の上限を設定し、使用かご数の制限などの資源管理が行われている。

5. 文献

- 1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度), 64-69(1991)